

日経アーキテクチャ

No.1052

2015 7-25

常識破りの 建築提案

特別レポート

「開閉屋根」の失速

News クローズアップ

アマゾンが仕掛ける住宅リフォーム革命





内外を緩く仕切り 生活空間に広がり

ランダムな木製ルーバーで囲んだバルコニーが特徴的なコーポラティブハウス。
内と外を緩やかに仕切る役目を持たせ、
生活空間として住まい手が利用できるようにした。

近年、コーポラティブハウスは、テーマ性の模索が活発になってきている。コンクリート打ち放しなどでデザイン性をアピールするものや、環境共生住宅を掲げたものなど、提案は様々だ。

ゼロワンオフィス(東京都目黒区)の伊藤正代表が企画・設計に当たった東京都世田谷区の「a-blanc」は、地下1階、地上3階建てのコーポラティブハウス。住戸数は13戸。ランダムな木製ルーバーをまとった外観

が特徴的だ。「コーポラティブハウスの場合、どこか内輪的な満足を求める人向けの住宅というイメージが持たれがち。もっと一般的な人にも参加してもらい、誰でも満足してもらえるような普

遍的に質の高い住まいづくりが必要だ」と伊藤代表は話す。模索するコーポラティブハウスの一手として、バルコニーやエントランスといった内と外をつなぐ空間を生活の延長空間として活用することに着目した(写真1)。

アルミの縦線に、木製ルーバーと木製プランターをランダムに配した。外構の植栽は、元の地形を生かして里山風の築山とした(写真:79ページまで澤田聖司)



【写真1】エントランスも半屋外空間に
道路からのアプローチは、緑の丘を登るイメージ。2層にわたる木の壁が内外をつなぐ。斜路は世田谷区バリアフリー建築条例に基づき設置。建物内の共用部は、古レンガを埋め込み、路地の雰囲気仕上りした。

ルーバーで生活空間を拡張

伊藤代表が設計の相談を受けたのは、この土地で生まれ育ち、親の代から土地を相続した所有者からだった。相談当初から「コーポラティブハウスにしたい」と目的は明確で、主要要望といえば「愛犬と暮らせること」と「玄関から傘をささずに駐車場に行けること」の2つだけ。伊藤代表は、まず周辺環境に目を向けた。

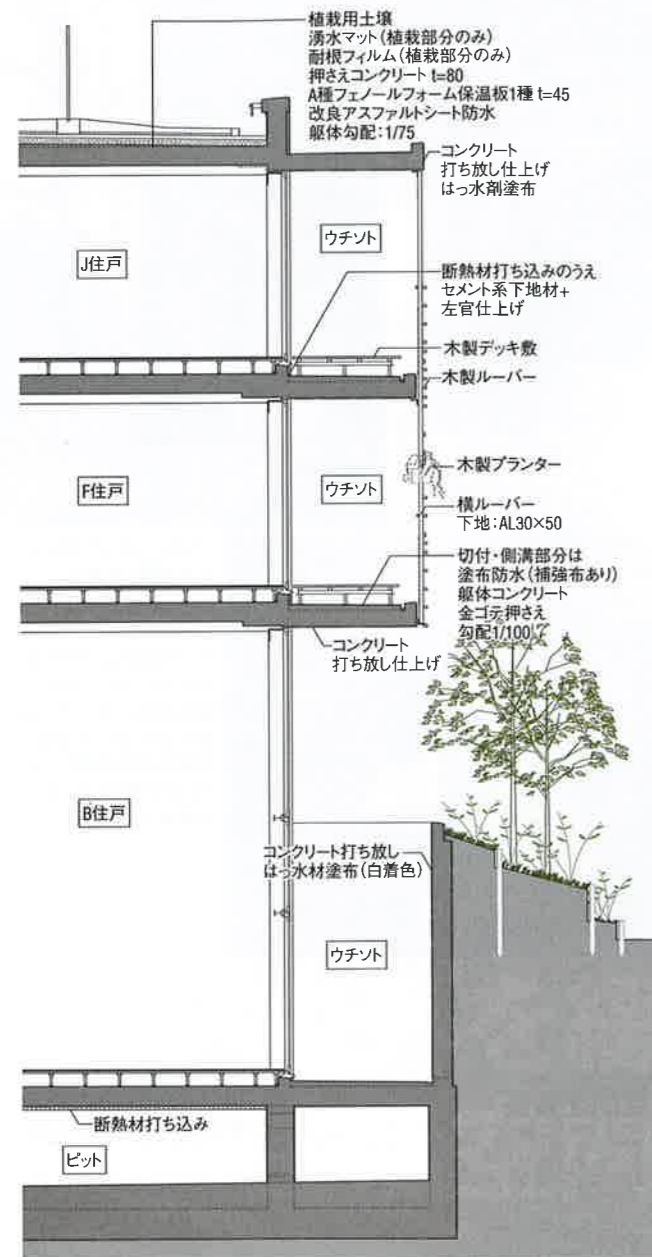
この敷地は、樹齢50年を超えるサクラがあるなど、緑豊かな場所だった。そこで、発注者からの要望を踏まえつつ「周辺環境と調和しながら、住

人が外とのつながりを感じて暮らせること」をコンセプトとした。外構の植栽に、サクラやサルスベリといった既存の樹木を残し、里山風をテーマに新たな樹木や草花を配置するといった取り組みはその1つだ。

外観にも気を配った。建物の2~3階の外周には、長さや幅の異なる木製のルーバーをランダムに渡した。エキスパンドメタルも検討したが、最終的には木製のルーバーに落ち着いた。所々に配置した木製プランターは壁面緑化の意図もある。

木製ルーバーは、外からは適度な目隠しともなる。また、内側からは窓

プレミアム この記事は日経アーキテクチャ・プレミアムに追加情報があります
【内外をつなげる空間の写真など】⇒kenplatz.jp/nap



断面詳細図 1/100



【写真2】ルーバーが緩やかに仕切る
3階にあるL住戸の内観。手前にある小上がりの畳スペースから見ると、リビング・ダイニングの先にバルコニーがある



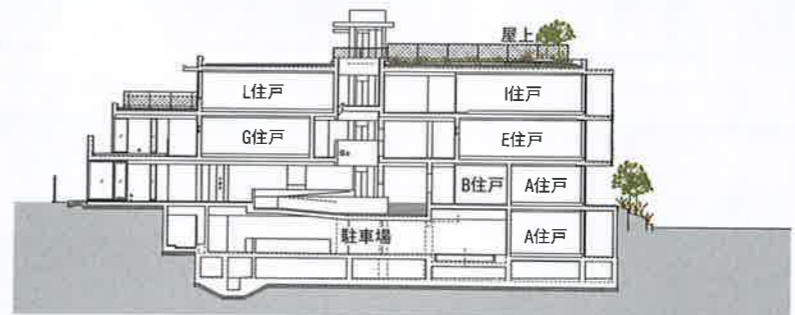
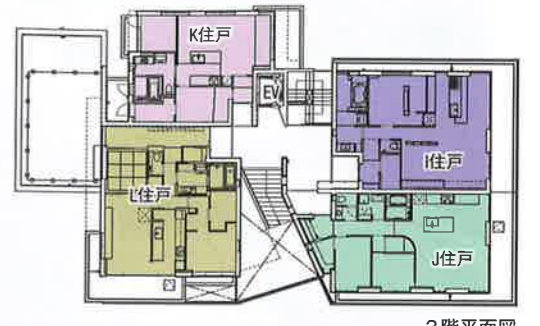
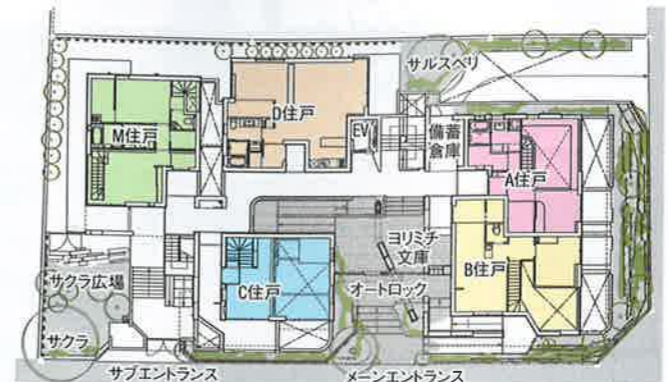
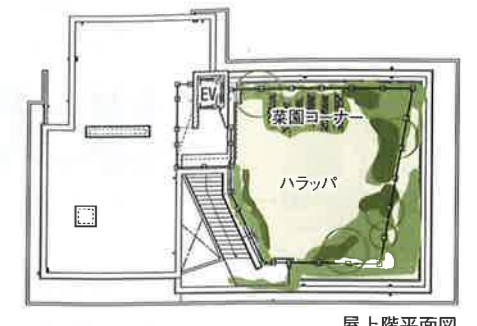
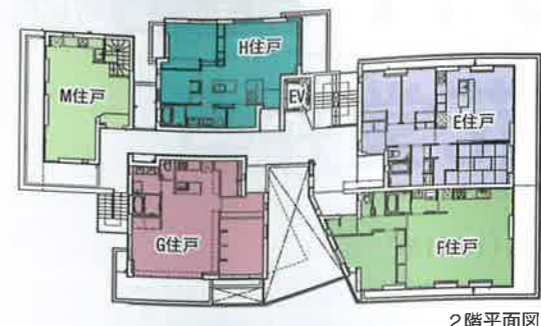
【写真3】バルコニーが生活空間に
L住戸の西側バルコニー。木製ルーバーが外からの視線を遮ることで、バルコニーを部屋から延長する生活空間として生かせる。ベットのトリミングなど日常的に利用している

を介してもう一枚のフィルターとして機能している。伊藤代表は木製ルーバーで囲んだバルコニー空間を「ウチソト(内外)」と名付けた。室外機置き場や物干し場としてバルコニーを利用するだけでなく、外部からの直接の視線を緩やかに遮ることで、気軽に外部と触れ合う住まいの延長として利用できる。

ウチソトの効果を高めているのが、天井まで届く開口部だ(写真2,3)。この建物は壁式構造を採用。鋼材で水平方向に床スラブを引っ張り垂直強度を高めることで、天井部に梁形が出ないようにした。このため、ハイサッシの設置が可能となり、室内からバル

コニー空間へのつながりを演出する。住人の中には、バルコニーの天井部からハンモックを吊るして、くつろぎのスペースとして利用している人もいた。建物の西側中央に設けられた2層吹き抜けのエントランスホールも、外との境を木製ルーバーで仕切った。吹き抜けを風が通り抜け、ルーバー越しに光が差し込むことで、エントランスホールも内外が緩やかにつながる広場のような空間としている。

(村島正彦=ライター)



a-blanc (エー・プラン)

■所在地:東京都世田谷区赤堤 ■主用途:共同住宅 ■地域・地区:第一種低層住居専用地域、第一種高度地区 ■建蔽率:57.3%(許容60%) ■容積率:99.14%(許容100%) ■前面道路:西11m、南8m ■駐車台数:7台 ■敷地面積:853.46㎡ ■建築面積:489.04㎡ ■延べ面積:1557.08㎡(うち容積率不算入部分710.93㎡) ■構造:鉄筋コンクリート造 ■階数:地下1階、地上3階 ■耐火性能:1時間耐火建築物 ■各階面積:地下1階437.68㎡、1階374.29㎡、2階395.45㎡、3階344.82㎡、塔屋階4.84㎡ ■基礎・杭:直接基礎 ■高さ:最高高さ9.9m、軒高9.25m、階高3m(地階3.35m)、天井高2.4m ■設計・監理者:ゼロワンオフィス ■設計協力者:ジェーエスディー(構造)、設備計画研究所(設備) ■施工者:片山組 ■施工協力者:神戸設備(衛生)、牧野電設(電気) ■設計期間:2012年11月~13年11月 ■施工期間:2013年12月~15年3月 ■総戸数:13戸(うち分譲戸数12戸) ■分譲住戸面積:60.23~84.06㎡ ■分譲価格:4380万~7190万円 ■総事業費:7億8000万円 ■設計・監理費:5000万円 ■工事単価:27万9947.08円/㎡(延べ面積当たり)

外部仕上げ

■屋根:改良アスファルト防水のうえ押えコンクリートt=80
■外壁:A種押し出し法ポリスチレンフォーム保温板t=30+セメント系下地材(エクセルジョイント)+左官材(ラフターライト虫くい) ■外まわり建具:スチールOP・アイアン塗装、アルミサッシ ■外構:古レンガ+モルタル刷毛引き、メッシュフェンス土留め+木杭+木板

内部仕上げ

■床:モルタル金ゴテ仕上げのうえ表面硬化剤、フローリング(住戸A)、杉足場板、フローリング(住戸B)、タイル張り(住戸L) ■壁:AEP塗装、左官壁(住戸A、住戸L)、AEP塗装(住戸B) ■天井:コンクリート打ち放し仕上げ(住戸A)、AEP塗装(住戸B)、ビニールクロス(住戸L)



地下1階にあるA住戸のリビング・ダイニング。2層吹き抜けて、明るく開放的だ

設計者:伊藤正 (いとうただし)

1959年東京生まれ。81年から84年まで清水建設に勤務。フリーランスを経て、89年にゼロワンオフィスを設立。「あたたかな住空間デザインコンペ」で東京ガス賞を受賞したほか、「現代日本の建築家・優秀建築選」に入選